

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

<地域の現状>

- ・プライバシーの配慮がある半面で、地域でのお互い様の関りが定着しにくい。
- ・支援の必要性が周囲に分かりにくく、相談の入るタイミングが遅い傾向がある。
- ・住民の健康意識が高く運動活動も盛んである。坂道が多い地理的要因から、活動や運動を行ってきた方でも身体機能が低下すると外出が難しくなり、社会参加の機会が減少しがちである。
- ・住民主体の活動がそれぞれで完結していることが多く、他の活動とのつながりによる更なる活性化が期待できる。
- ・地域のボランティア団体や活動を担う人材が高齢化しており後継者の課題があるが、様々な知識・経験のある住民が多く、今後の地域活動の展開を期待できる人材が豊富な地域である。

<今後の方向性>

●達成したい地域の姿

『住民ひとりひとりが地域に愛着を感じ、地域とつながりながら暮しているまち』

●取り組みの方向性

「地域への愛着感を高める」

- ・身近な地域になじみの関係がある ・地域に魅力のある活動がある
- ・地域の人やさしさふれられている

「地域とつながりながらの暮らし」

- ・身近な地域に、家族以外に相談ができる人がいる
- ・地域の組織やグループに所属している

●取り組みのテーマ

「あなたの身近な地域でプラスワン」

例)・身近な地域で活動しているグループに参加する(参加するグループを1つ増やす)

- ・身近な地域で相談できる人を1人増やす
- ・自分の参加している活動グループに1人仲間を増やす

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	地域で地域の課題を解決し、住みやすい愛着のある地域を作ることを目的に、複数年かけ圏域の全自治会でのエリア会議開催を目指す。 今年度は開催の要望が上がった1自治会とのエリア会議を計画し実施する。
■	■	圏域の地域の活動について、把握が出来ていない活動の情報収集を続ける。把握できた活動について実際に出向き活動をアセスメントし、適切な情報提供ができるよう地域情報を整理、活用する。
■	<input type="checkbox"/>	身近な地域でプラスワンの活動を1人でも多くの方が始められるよう、地域でつながることによる 介護予防・地域力向上の力について地域住民の方々にケアプラザの事業や地域の活動に出向き普及
■	■	地域の現状のニーズを踏まえた地域支援を行えるよう正確な情報収集を行っていく。ケアプラザの事業参加者へのアンケートの実施と総合相談の内容や傾向の分析。介護予防支援での地域支援のニーズの聞き取りを行う。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

区からのコメント